

おらほの
町の憲法

西会津町まちづくり基本条例（抜粋）

（平成 20 年 4 月 1 日施行） ◆西会津のまちづくりについて、町民が主役となり、町民と議会と行政の三者が、互いに信頼を深め、それぞれが役割と責任を自覚し「協働によるまちづくり」を進めていく基本的な考え方としくみを明らかにするため、制定しました。

（まちづくりの主役）

第 4 条 まちづくりの主役は、町民とします。

（町民参加）

第 5 条 まちづくりは、町民の参加・参画により進めるものとします。

（情報の共有）

第 6 条 町民、議会及び執行機関は、まちづくりについての情報を共有していくものとします。

2 町は、町が保有する個人情報適切に管理し保護するものとします。

（協働）

第 7 条 町民、議会及び執行機関は、それぞれの役割を果たし、相互に補完・協力しながら、協働によるまちづくりを進めるものとします。

（男女共同参画）

第 8 条 町は、男女が互いの人権を尊重し、まちづくりに共同で参画していく社会を目指すものとします。

町のシンボル

町章（昭和 29 年 9 月 20 日制定）

西会津町の「西」を図案化したもので、上部の円は住民の協和を、三角形の三辺は自由、平等、友愛を基調とする民主主義の精神を、V 字形は町政自治の発展を表しています。



西会津町民憲章（平成 27 年 9 月 10 日制定）

わたしたちのふるさと西会津町は 雄大な飯豊連峰にいだかれ阿賀川の豊かな流れに育まれた美しい自然と長い歴史を誇る信仰の里です。

わたしたちは先人たちが築き上げてきた尊い歴史と伝統に学びこのふるさとに生きる自覚と誇りを持ち希望に満ちた豊かな町をめざし町民の標となるようここに町民憲章を定めます。

- 「に」 担います 未来を拓く まちづくり
- 「し」 信じます 敬うところ おもいやり
- 「あ」 愛します 豊かな自然 住まうひと
- 「い」 活かします 郷土のたから みんなの夢
- 「づ」 創ります 笑顔あふれる ふるさとを

昭和 48 年 11 月 1 日制定

町の花【おとめゆり】

おとめゆりは、西会津町の山地に数多く自生しています。茎丈は 50～90cm、鉄砲の形をしたピンクの可れんな花が 6 月の上旬から中旬にかけて野山を彩ります。東北地方の一部のみに自生するといわれる珍しく貴重な花です。学名「ヒメサユリ」。古くは、アイズユリ・サユリとも呼ばれていました。西会津町ではおとめゆりが一般的に多く親しまれています。



町の木【桐】

桐は、古くから会津で栽培され、中でも西会津町は代表的な産地です。畑はもとより家屋敷にも植えられ、町の人びとは桐とともに生長すると言っても過言ではありません。木は非常に軽く、柾目の美しさ、しぶい光沢は高級な家具・楽器類などに使われ、会津桐とも呼ばれて全国にその名を高めています。



西会津町誕生 70 周年特集 第 3 弾

「町とわたしのメモリー」

令和 6 年 7 月 1 日、西会津町は町制施行 70 周年を迎えました。

これを記念し、10 月号から令和 7 年 1 月号まで「西会津町誕生 70 周年特集」を掲載しています。

今回は、「町とわたしのメモリー」として町とともに歩んできたお 2 人に町での思い出などをお聞きしました。

町と私の思い出の 70 年



田崎 敬修 さん

西会津町が誕生した翌年、開校 2 年目の西会津町立野沢小学校に入学しました。脱脂粉乳給食や学校行事のイナゴ取り、落ち穂拾い、杉の葉拾いなどが思い出されます。昭和 31 年の大洪水で私の家も流失寸前となり現在の芝草に移転しました。昭和 36 年、町合併の象徴の 1 つとして野沢と尾野本の両中学校が統合し西会津中学校が開校しますが、両地区の中学生が新校舎の同じ教室で共に学んだのは私たち（中学 2 年生の時）が初めてで大事な友ができました。昭和 39 年、私たち団塊の世代は進学と就職がほぼ半々で就職する友は「金の卵」と呼ばれ大歓迎でした。この年、西会津高校が独

立開校となります。磐越西線の朝夕は満員の通勤通学客で、乗降客まばらな今では想像もできない情景でした。昭和後半から平成は教員として各地で多くの皆さまのお世話になりました。特に奥川小学校飯根、大綱木分校、本校と尾野本小学校での思い出は言葉に尽くせないものがあります。この間、磐越自動車道が開通し、国道 49 号バイパス沿いには消防署、道の駅、スーパー、コンビニなどができ人の流れが変わりました。

この思い出の中に生きる西会津町を町内外の人に知ってもらうため、町観光ガイドの一員として町の事柄を紹介する活動を続けていきたいと思っています。

子どもたちの元気な声がいつも聞こえる町

私は、奥川の小綱木地区に生まれ育ちました。分校で 3 年間学び 4 年生からは本校に通い、学校に行くのが大好きな子どもでした。「先生になりたい」という思いと、両親の理解のお陰で長年、埼玉県で教員生活を送ることができました。

母が 1 人になり定年後は町に戻り、さゆりが丘に住むことにしました。戻ってきて驚いたのは、少子高齢化で小学校も統合され 1 つになるという事でした。

町の子どものために少しでも役立てればという思いでサポートティーチャーの仕事が続いています。教員として長年働かせていただいた感謝の思いを何かの形でお返ししようと常に考えてい

ました。浦島太郎状態に戻ってきましたが、町のいろんな活動に参加させていただき、町の良さを実感しております。また、民生委員の仕事にも就かせていただき、多くの方々と交流させてもらい、たくさん事を学ばせていただいております。これからの残りの人生は、自分のできる範囲で地域や町のために役立つことがあれば協力していきたいと考えております。子どもたちの元気な声がいつも聞こえる町、お年寄りが安心して暮らしていける町、若い人たちが住みやすい町づくりをこれからもお願いし、さらなる町の発展を願い、自分自身もがんばっていきたくて考えております。



荒海 孝子 さん